

物語一〈平安京・内裏〉 地図 左下

昔、京の都にさだひらの中将という貴公子がおりました。中将は究極の美女との出会いを求めらるうちに、ある日、扇合わせの会で見た、扇の中の美女に恋をしてしまいました。



由来由まき豆分節 本地物語の船艀



物語七〈貴船神社〉

二人は長寿をたもち、その後、貴船の神となって、恋をする人々を守ってくださったということです。



物語二 寺 鞍馬

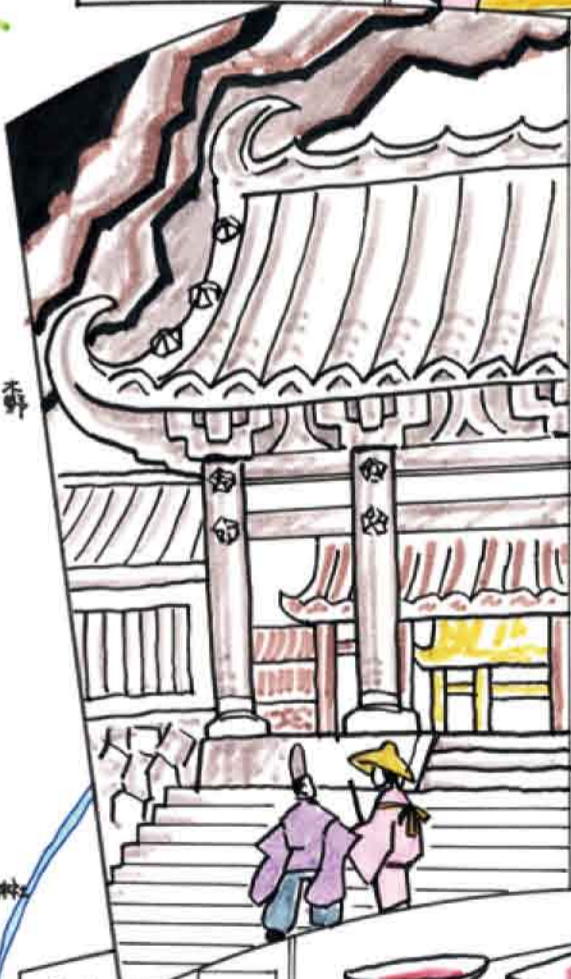
伯父の大殿から、扇の美女が僧正が谷の奥に住む鬼の娘の「こんつ女(によ)」だと聞いた中将は、鞍馬寺へ参りました。すると偶然そこに居合わせた彼女と出会うことができました。

物語二 〈鞍馬寺〉



物語三 〈僧正ヶ谷 鬼の王国〉 地図 左上

こんつ女の後を追って僧正が谷の岩屋の奥へ行くと、鬼国(きこく)という鬼の王国が広がっていました。こんつ女は「ここは人間の来る所ではありません。紛れ込めば鬼の餌食にされてしまうのです」と言いますが、中将は「それでもよいから一緒に」と、後を追って行きました。



物語六 深泥池

晴れて結ばれた二人は、幸せに暮らしました。ところがこれを知った鬼の大王は、激怒します。鬼たちの襲撃を防ぐために、節分に深泥池の穴に豆をまけば、鬼たちはもう出て来られません。

物語七 貴船神社



物語五 〈平安京内中将の邸〉 地図 右下

女児は中将に引き取られ、十数年後には美しい女性に成長しました。ある夜、中将が亡きこんつ女を思っ涙にくれて、「何を隠しましょう、わたしはこんつ女の生まれ代わりなのです」と告げたのです！



物語三 (続き)

こんつ女は死繁杖(しはんじょう)という杖を使って中将の体を小さくして守り袋に隠し、父の大王の前に出ました。ところが大王は中将がいることを見抜き、「中将を差し出すか、お前がわしに喰われるか、二つに一つだ」と言い放ったのです。



物語五 平安京内 中将邸

物語一 平安京・内裏

二人は泣く泣く来世での出会いを約束して別れ、こんつ女は父の餌食となりました。月日がながれ、中将はこんつ女の供養をして暮らすうち、蓮台野で美しい女児と出会いました。

